

お便りください

このコーナーは、皆さんの意見や地域的话题をお届けしています
広報広聴課 ☎51-0123 内線2823へご連絡ください



100号を突破したタウン紙
「See-through」(シー・スルー) 編集長

高山 美樹 さん

(横割1丁目)



▲2月末から3月初めにかけて「百号突破記念号出版記念展」を開催

昭 和六十二年五月に創刊した「シー・スルー」は、ことし一月で百七号を数え、一月には百号突破記念号を発行しました。その編集長を務める高山さんは、グラフィックデザイナーの本業を持つ傍ら、まちづくりコーデイナー、ふじ環境倶楽部員、富士山こどもの国パートナーを務めるなど、幅広い活動に積極的に参加しています。

高山さんが編集に携わったのは第二号から。きっかけは「隣の席の同僚から声をかけられ、おもしろそうと思った」ことから。昭和六十二年五月に創刊した「シー・スルー」は、ことし一月で百七号を数え、一月には百号突破記念号を発行しました。その編集長を務める高山さんは、グラフィックデザイナーの本業を持つ傍ら、まちづくりコーデイナー、ふじ環境倶楽部員、富士山こどもの国パートナーを務めるなど、幅広い活動に積極的に参加しています。

高山さんは、「この十一年間、取材などを通じて、富士市の街や人の魅力をますます強く感じてきました。百号突破記念号を出版して開催した記念展では、読者の皆さんのいろいろな声を直接聞かせていただき、「シー・スルー」が自分たちの知らないところでも広がってくれていくことを知りとても励みになりました。『シー・スルー』を通じて、年代の違う人同士が共通のことを話題にしてくれるようになってきたらいいですね。これからは、『富士のまちづくりジャーナル』として、皆さんと一緒にわが街を見つめていきたいと思っています」と話してくれました。

比奈の窪田さん夫妻が「富士百人一首」を発刊

ブリームアップ

ふじ



比奈にお住まいの窪田悟峰(本名・伍作)さん、文子さんご夫妻が、このほど富士山にちなんだ歌を百首集めた「富士百人一首」(A四判・二百八ページ)を発刊しました。この本は、「悟峰さんが八十歳、文子さんが七十歳を迎え、夫婦合わせて百五十歳になる西暦二〇〇〇年に百人の歌を」という思いを持って、平成九年から三年の歳月をかけて夫婦共同で制作しました。歌は、万葉集の山部赤人の歌から江戸時代までの五十首と、郷土の歌人の作品十首を含んだ明治時代から現代までの五十首をあわせて百首を選定。夫婦の目から見た百首の歌意や解説を記し、悟峰さんがその歌の書を添えて一冊の本にまとめました。

窪田さん夫妻は、「文献の少ない現代の歌に解説をつけるのは苦劳しました。図書館に連日通ったり、東京の図書館へ文献を探しに出かけたりしたものです。百首の順番は作者の生年月日順にしましたが、年代によってそれぞれ特徴があり、和歌の流れを感じました。作者がいろいろな角度から詠んだ富士山はやはり魅力的ですね。富士山のふもとで生活する喜びを実感しています」と話してくれました。

なお、四月二十七日の午後から三十日までロゼシアターの展示室で「富士百人一首展」を開催します。ここでは、選んだ百首のほか、富士を詠んだ歌の書作品の展示を行います。

また、「富士百人一首」は希望者に印刷実費(三千八百円)で配付します。お問い合わせは窪田方(三四一〇二二四)へ



▲「富士百人一首」を発刊した窪田さん夫妻